

マダガスカル人から見たアフリカの環境問題

大阪大学

工学部 電子情報工学科

RAMANANARIVO Mihary Fiderana (マダガスカル)

多くの人は「アフリカの問題」と聞いたら、貧困、難民、紛争、HIV/AIDS・感染症、食糧問題などを思い浮かべるだろう。アフリカはそれらの他にもう一つの深刻な問題を抱えている。それは環境問題である。アフリカ大陸は多様な動植物に恵まれており、自然資源が大量に存在している地域であるが、環境問題を抱えていないわけではない。日本ではあまり知られていないが、アフリカは重大な環境問題を抱えている。さらにそれは地球全体にも広がるおそれのある大規模な問題である。アフリカの専門家である船田クラークンさやか氏は「アフリカの環境問題は、人命の危機をめぐる問題となっている。」と述べ、アフリカの環境問題の峻しさを明確にしている。そこで、本稿は筆者の母国であるマダガスカルを中心に、アフリカが直面している環境問題について述べる。

本稿は次のように構成している。まず、次節でマダガスカルを始め、アフリカの環境問題の現状を示す。その次はそれらの問題の要因を解説する。最後にそれらの環境問題の解決策を提言する。

私は平成 23 年にマダガスカルに 3 年ぶりに帰国した。母国に到着した後、首都のアンタナナリボ市から私の故郷フィアナランツア市を約 400 km の旅を車でしてみた。そのとき、車から外に目を向けたところ、景色が 3 年前の来日と完全に変わったことに気づいた。道に沿っていた森林がほとんどなくなったのだ。地方の世界保護基金(WWF)によれば、マダガスカルの森林はこの 50 年間にわたって 4 割に減少したのである。さらに、マダガスカルの 90%の森林が喪失したことが報告された。この森林破壊はさらなる深刻な多数の環境問題を起こしている。例えば土壌の浸食・劣化、洪水、旱魃、砂漠化などがあげられる。マダガスカルは元来森で覆われていたため、宇宙から見ると緑色に見えたが、現在は森がなくなり、赤色の土壌しか残っていない、赤色に見える。そのためかつては「緑の島」と呼ばれていた私の国は現在「赤い島」と呼ばれるようになったのだ。

アフリカ通信社 Afrol のジャーナリスト Rainer Henning 氏によるとアフリカ大陸全体もマダガスカル同様の森林破壊問題を抱えているようだ。そして、アフリカ諸国は現在急速な成長を迫る「開発途上」国が多いため、国際貿易の拡大や工業化によって大気汚染問題、水質問題、天然資源(石油や天然ガスなど)の枯渇問題なども数年後大きくなると予想される。人口の増加や急速な都市化によってゴミ問題も近い将来に起こることも間違いないだろう。

確かに、日本においても森林破壊などのような環境問題もあった。しかし、前述の船田氏はこう述べた。「アフリカにおける環境問題が、われわれ(日本人)が経験してきた、あるいは現在新興諸国が直面しつつある問題とは同じではない」。それは問題が発生している時代が異なるからだと思う。そこで、アフリカの環境問題の原因はいったい何かについて次節に解説する。

我らマダガスカル人の顕著な特徴として、自分の文化を厳守することが挙げられる。マダガスカル文化には、「タヴィ」という昔から行われていた伝統的な焼畑農業がある。タヴィとは熱帯雨林を燃やすことによって田んぼを交換する方法である。2、3年後、土壌が疲労し、田んぼとしてふさわしくなくなるため、農業者は新たな熱帯雨林を燃やし、そこに移転する。私はこれがマダガスカル人の森林破壊の根本的な原因だと思う。マダガスカル人の7割は農業者であり、その殆どがタヴィを採用している。また、マダガスカル人の環境問題のもう一つの原因としては自然災害である。マダガスカルには日本のように地震や津波がない代わりに、サイクロン、雹、気候変動・不安定、そして蝗害などがある。例えば、平成25年7月に蝗害でマダガスカル人の農業地の半分以上が被害を受け、63万トンの米が失われたことが The Guardian 新聞社によって報告された。

アフリカもマダガスカルと同様の原因で森林破壊問題が起こっている。ただ、アフリカ大陸では大規模な伐採による原因もある。特に、世界的に木材需要が高まっているため、アフリカの木材による輸出が最近制御できなくなっている。それに、違法伐採があることもいうまでもない。

改める。アフリカの環境問題は日本が古い時代に経験した環境問題とは異なると思う。それは発生する原因が同じではない他、発生する時代も違うからだと思う。特に、現在のアフリカはグローバリゼーション時代を生き、アフリカも世界市場に参加しないと生き残れない。しかし、アフリカの現在の情勢を見てほしい。世界の市場に参加するにはアフリ

カの貴重な資源を輸出しなければならないのではないだろうか。だからこそ、環境問題が起こるのである。では、アフリカはこの環境問題を解決するにはどうすれば良いか。

「森林を燃やすと国が燃える」。それは中学生のころテレビでよく耳にした宣伝である。マダガスカルには、森林燃焼の弊害をあらゆるメディアを通して国民に知らせていた時があった。しかし、マダガスカルでは森林燃焼行為が現在もなお続いている。そのため、私は森林燃焼を食い止めるためにはその弊害を国民に知らせることだけでは不十分だと思う。なぜなら、貧困の中で生きているマダガスカル人のほとんどは、未来や環境に配慮する余裕がなく、環境を徐々に破壊させる行為に関わっても、生き残れることをとにかく先に考えているからだと思う。マダガスカルだけではなく、アフリカのほとんどが同じような状況である。外務省によると、アフリカ諸国の大半は人口の半分以上が現在1日に、たった1.25ドル(約120円)で生活しているそうだ。そこで、私はアフリカ人に環境に損害を与えないような「生き残り方」さえ伝授すれば、マダガスカル・アフリカは環境問題から解放できると思う。例えば土地を回復させるような休閒農業を導入し、農業者は同じ領域で再度農業でき、森林を過剰に燃やさなくなるはずである。また、エコツーリズムを促進することによって、環境、手芸、ホテル業に関係する新しい仕事が創出することができる。それだけではない。環境保護に十分考慮する法律を作り上げ、その法律の下で自然資源を開発・輸出することもできる。それはアフリカの環境を保護するのみならず、貧困問題の解決にも貢献できると思う。

また、違法伐採の対策法としては、アフリカの環境保護機関の権力を高めることと、環境保護機関と政府との独立性を確立することである。アフリカにおける違法伐採が進行することはアフリカの環境保護機関がそれを防止することができないからであろう。特に政府の汚職によって、政府そのものが違法伐採に手を貸す国も少なくない。そこで、アフリカの環境保護機関を政府と完全に独立させ、その権力を高めることによって、環境保護機関の任務が別の機関から妨害・制限されることなく、より有効に行動できるようになると思う。

これまでアフリカからの視点で述べてきたが、自然災害による環境問題に関してはアフリカだけでは対応できないため、国際的な援助が必要だと思う。アフリカが他国との友好を深め、両国の密接な関係により環境保護だけではなく、経済成長のためにも援助を確保する必要がある。例えば、平成25年6月に横浜にて開催された第5回アフリカ開発会議

(TICAD V) がいい例である。そこでは、アフリカの自然災害による環境問題の対策として重要な項目である「気候変動に強靱アフリカ」の話題が議論され、国際社会が協力してアフリカの問題に取り組む姿勢が示された。

以上のように、アフリカの環境問題には森林破壊と自然資源の枯渇が主であり、そこから土壌の浸食・劣化、洪水、旱魃、砂漠化のようにさらなる諸問題が生み出される。森林破壊の原因としては伝統的な焼畑農業や過剰伐採などの人間活動による問題の上に、サイクロン、雹、気候変動・不安定、蝗害などのような自然災害によるものが挙げられる。これらの環境問題の対策法としては、休閒農業等の新農業法の導入、エコツーリズムの促進等によって、国民の「環境にやさしい生き残り方」を推進することが挙げられる。また、アフリカにある環境保護機関の権力を強化し、政府との独立性を確立することによって、政府汚職問題と違法伐採は防止できるはずである。そして、他国との関係を深め、様々な援助の機会を確保することによって、アフリカが抱える環境問題の解決が図られるだろう。

アフリカ諸国は日本や他の先進国のように経済的に強くない上に、技術がまだ発達していない国が多い。その代わりに、アフリカは多くの自然資源に恵まれているが、これらの資源を経済成長のために適正に利用しなければならない。仮にアフリカの環境破壊によって資源が全て枯渇してしまうとすれば、アフリカの運命はいったいどうなるだろうか。非常に難しい問題だが、環境問題の解決なくしては、アフリカの持続的な成長はただの夢物語に過ぎないと思う。

参考文献

[1] 日本語文献

- 外務省 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/comment/faq/area/africa.html>)
- 第5回アフリカ開発会議 (TICAD V)、横浜宣言 2013、外務省、(http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/page3_000209.html)
- 船田クラークセンさやか、「アフリカと環境問題・森林破壊にみるグローバル化・ガバナンス・脆弱性」、国際問題、no. 591、(2010年)

[2] 日本語以外の文献

- European Space Agency (ESA), "Earth From Space: 'Great Red Island'", (2009年)

- Rainer Chr. Henning, “Forests and deforestation in Africa - the wasting of an immense resource”, afrol News.
- The Guardian, “Madagascar battling worst locust plague since 1950s”, (2013 年)